

アジア・アフリカ ラテンアメリカ

おおさか AALA
非核・非同盟・平和・友好・連帯

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会

〒540-0004 大阪府中央区玉造 1-6-11 黒石ビル3F

2025年7月1日 No. 629



特別講演 飯田光徳さん（日本コリア協会・大阪/理事長）



2025年度・第63回大阪AALA定期総会は、6月1日（日）午後1時半から森ノ宮にある貸会議室・えきちか森ノ宮で開催されました。

総会に先立って特別講演として、日本コリア協会・大阪の理事長の飯田光徳さんに「根底に流れる『植民地主義』を私たちはのりこえられるか?!」とのテーマで韓国情勢についてお話をしてもらいました。

昨年12月3日、韓国のユン大統領は非常戒厳を宣布しましたが、何千人・何万人という市民の抗議運動はこれを解除させたのです。韓国の民主主義を守ろうとする市民の力の背景を歴史的な経緯を含めて、お話していただきました。飯田さんの記念講演に熱がはいり過ぎて予定の時間に納まりきれないくらい多彩な内容での講演でした。講師の飯田さん、ありがとうございました。

特別講演が終わり、休憩となりましたが、この休憩タイムが終わったころに大阪AALAの会員であり、参議院選挙大阪選挙区の候補予定者



第63回大阪AALA定期総会報告

粕谷 武志

の清水ただしさんが会場に来られました。清水さんは連日の行動で日焼けして精悍な顔で「絶対に戦争する国にしてはならない、外交を重視し、話し合いを重ねていくというASEANに学びながら非核・非同盟の運動を進めるAALAの活動に期待します」と、持ち前のユーモアと弁舌さでお話をされました。

その後、総会に移りました。議長には高木さんが選出され、最初にこの1年間の物故者に黙祷を捧げました。その後、姫野理事長が「激動が続く世界情勢の中で日本には非常に多くの外国人が訪れているが、AALAの国々から来られている人々と私たちは交流をつくっていくような運動も必要ではないか」との開会のあいさつがありました。



清水ただしさん(左)
姫野理事長(右)

大阪AALA定期総会

第1号議案提案では、2024年度の経過報告と会計報告、会計監査報告、その後2025年度の予算案と活動計画の提案に移りました。第1号議案への質疑・討論では、財政状況についての質問・意見が3人からありました。時間の関係で十分な討議の時間が確保できなかったことが少し反省点でした。

討論のまとめは上村副理事長が行い、第1号議案が承認されました。次に第2号議案として2025年度役員選出と採択になりました。全員承認され、休憩となりました。この間に第1回理事会を会場内で開催し、2025年度の理事長以下の役員が決まりました。活動の充実をめざして2025年度のとりくみ（総会後の補足も含みます）

▼「AALAカフェ」・「英語で世界を読む会」など対話型学習会の定期開催と拡大を目指します。
▼国際平和署名3,000筆をめざします。署名を集

めることで会員との連帯や他団体との連携もつくっていきます。また、第11次全国署名を今年のASEAN議長国マレーシアへ届けるためのツアーが11月30日(日)から予定されています。この派遣団への参加も積極的に呼びかけます。

▼事務局体制を充実させ、事務局会議、機関紙編集会議を定例化します。理事会や常任理事会のスムーズな運営と準備を進めます。機関紙は5人体制(尾川、粕谷、堀内、下川、吉田)でのローテーションを継続します。

▼地域支部づくりをすすめます。地域ごとに近隣の会員の絆と連帯をはかります。当面は、会員・読者への連絡や会費等の納入などの呼びかけや、地域グループ的なつながりをつくっていくことをめざします。

▼財政強化のために組織強化募金の訴えを続けます。「組織強化」と「財政強化」は表裏一体のもので、大阪AALAの財政は極めて厳しい状態にあります。年末募金や年度末募金に限らず、通年の組織強化募金の訴えを続けます。

ベトナム元政治囚・コーラスグループ

招待プロジェクトについてお願い

■経緯

私たち大阪AALAはベトナム解放50周年記念として、今年の2月に23名でベトナムツアーを実施し、ホーチミン市では元政治囚コーラスグループの歓迎を受け、歌と踊りでの交流を深めてきましたが、そのことがきっかけとなって、このコーラスグループ12名が11月15日〜22日、来日予定です。

彼女らは、ベトナム戦争時、政治囚として投獄され拷問など野蛮な弾圧を受けたためダメージはまだ続いているといえます。今回の来日では、日本の病院で精密検査を受けてもらうとともに、東京・名古屋・そし

て関西での公演と交流が計画されています。

■関西実行委員会

しかし、関西での日程がまだ決まっていません。そのために関西の4府県のAALAと日本ベトナム友好協会などの団体で実行委員会をつくって、歓迎と交流のイベントを考えていくことが決まっています。日本での病院での検査や滞在費、交通費などが約200万円と見積もられていますが、これは日本側で負担することになっていきます。そのために関西での分担当金が80万円と設定されています。

実行委員会はこの原稿を書いている時点ではまだ結

成されていますが、この機関紙が到着するころには結成されているものと思われま

■お願い

紙面をお借りして、関西でのイベントに皆さまのご協力をお願いいたします。具体的には、コーラスグループと関西のベトナム人団体の歌や踊りなどの公演のチケットを買っていただくことや募金に応じていただくことになっていきます。が、今後実行委員会が企画を進めていくにしたがって具体的なになっていきますので、逐次お知らせして、ご協力をお願いすることになると思います。どうかよろしくお願いいたします。

2025年度 大阪AALA新役員

【代表委員】

安達克郎・植田保二・小林保夫
長谷川道弘・吉瀬孝子

【理事長】姫野浄

【副理事長】

上村得世・浜辺友三郎
米澤清恵

【事務局長】粕谷武志

【会計】西野敏恵

【事務局次長】小松靖昌・堀内保

孝【常任理事】江野久美子・尾川理江・下川今朝美・高木裕司
畑山卓・安井倫子・吉本敦【理事】井上賢二・猪腰幸治(新任)

吉田信夫・和田鈴江(新任)・日本共産党大阪府委員会・民主青年同盟大阪府委員会 園部真拓

【監事】小笠原由美子・松本千賀子



元政治囚・コーラスグループの公演（今年2月）

台湾中央研究院との交流会に参加して

日本AALA事務局次長 堀内 保孝

日本AALAは、昨年引き続き、5月21日、台湾中央研究院の反戦平和を望む研究者との交流会を持つために、台湾中央研究院欧米研究所を訪問しました。

◆これまでの交流の経過

昨年の訪問については、日本AALA機関紙2024年7月、大阪AALA機関紙7月号を御覧ください。そして昨年11月9日には、日本平和大会ブレ企画「台湾の反戦平和勢力と交流する会」が日本AALAと日本中国友好協会の共催で開かれました。

この会は台湾とオンラインで結んで開かれました。

台湾側からは3人の研究者が、米中間の対立の中で緊張を煽るマスコミや勢力に対抗して平和を追求する取り組みを報告、日本側の

参加者とともに「有事を起させない連帯と友好の絆を強めよう」と確認していました。

この交流会には会場で26人、Zoomで60人、計約90人が参加しました。

この内容については、日本AALA機関紙2024年12月号で報道されています。また、日中友好新聞2024年12月15日号に掲載され、この交流会の映像は日本中国友好協会のホームページの「活動紹介」のサイトから見るができます。

◆今年5月の交流

今回の日本AALAと中央研究院の研究者との交流はこの延長線上で2回目として持たれました。今回は訪問の前に台湾の研究者の方と事前にZoomでの打



台湾中央研究院盧倩儀氏の報告

ち合わせをし、それをもとに行いました。

この訪問での詳しい内容は日本AALAの機関紙の発表を待っていただくとして、ここでは今年の日本平和大会では日本AALAと日本中国友好協会との共催で分科会を持つ事になりました。

「『台湾有事』を起こさないために（仮）ー沖縄先島諸島のミサイル基地化との関連をみながら」（10月26日・名古屋）ということと2名（予定）の台湾側の発表者をお呼びしてのリアル開催を予定し、今準備を進めています。

◆台湾との交流の意義

ここからは、参加者堀内の感想ですが、アメリカの中国封じ込めの犠牲に台湾と沖縄をしない、させない市民レベルの国際連帯を進める運動の一助になれば幸いだと考えています。

一昨年の12月に大阪私学退職教職員のみなどと一緒に「北東アジア平和と友好の旅」というツアーに参加し台湾を初めて訪問しました。この訪問では、戦前の日本が台湾とどういう関わりであったのか学ぶことができました。「牡丹社事件」「霧社事件」「二二八事件」などを初めて知りました。あまりにも無知であった自分を恥ずかしく思うとともに今からでも多くの事を学びたいと考えるようになりました。

今「台湾有事」が意図的に扇動されていることが強く感じられます。アメリカの中国封じ込めの意図、日本の政府の軍拡の意図をきちんと打ち破る世論をつく

りあげていくことが、アジアの平和のために必要だと思えます。そのためには身近にある国、中国、台湾、韓国、北朝鮮などの事をマスコミ・メディアに踊らされることなく正確に知ることが求められていると思います。



5/21 台湾中央研究院欧米研究所での交流会

大阪はPFAS汚染の根源地！

大阪PFAS汚染と健康を考える会
長岡ゆりこ

広がるPFAS汚染

令和の公害PFAS（ペーファス）。世界中・日本中に広がるPFAS汚染ですが、大阪ではダイキン工業、淀川製作所（摂津市）が、PFASの中でも一番毒性が強いPFOA（ペーフォア）や多様なPFASを長年にわたり製造し、汚染の根拠となっていました。

PFOAは1万種類以上ある有機フッ素化合物です。もともと自然界には存在せず、水も油もはじくなどの特性から工業製品から日用品まで幅広く使われています。しかし近年毒性が指摘され、2019年からPFOAがストックホルム条約の規制対象になったことなどから、日本でもようやく規制の動きが始まりました。分解されにくく蓄積しやすいため、永遠の化学物質「フォーエバーケミカル」と呼ばれています。WHOの国際がん研究機関（IARC）が2023年にPFOAを「発がん性がある」の最高ランクに位置づけたことは大きなニュースになりましたね。

以前から知られていた毒性」は近年まで分かっていたのでしょか？カリフォルニア大学の研究では「企業は1970年、つまり公衆衛生界がPFASについて知るよりも40年も前に、PFASが『吸入すると非常に有毒、摂取すると中程度の有毒』であることを知っていた」と結論づけています。日本ではダイキン工業が「1960年代後半に他社から購

入したPFOAの取り扱いを開始。その後1980年代から自社でのPFOAの製造も開始し、他社からの購入品と併せてPFOAを使用」と自社ホームページで語っていますが、製造を開始したときには、有毒性を理解していたのではないのでしょうか？

PFAS汚染問題をとらえるときに、もう一つ、日本人として忘れてならないことがあります。このPFASの開発初期にデュポン社が発見した「テフロン」は、米軍の原子爆弾製造時、配管のコーティング材に使われました。原爆投下はテフロンが（PFASが）可能にしたといっても過言ではないのです。

また、汚染の広がりは、PFAS製造工場やPFASを使用する半導体などの工場、それから排出され

る産業廃棄物の処理処分場の周辺まで広範囲です。とりわけ産廃問題は、水や空気がキレイなはずの山間部に高濃度の汚染が広がるという点でも、罪が重いと感じます。

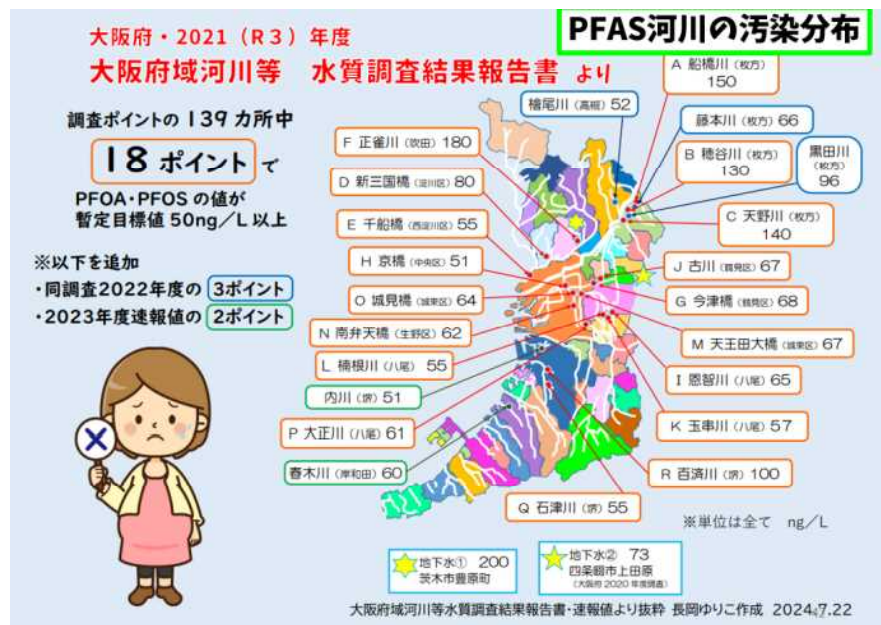
今回、大阪の主な汚染物質PFOAの側面を中心に書いていますが、もう一つの毒性が強いPFOS（ペーフォス）は、米軍などが使う泡消火剤に使われており、基地問題と合わせて汚染問題も深刻になっていきます。

政府は国民の健康を守れ

PFASの毒性について政府は、「日本での疫学調査などの知見が少なく」と逃げてきましたが、妊婦さんの血中PFAS濃度が高ければ、染色体異常や低出生体重（昔は未熟児と言いましたね）が有意に高くなるという疫学調査の結果が出ています。また、大阪PFAS汚染と健康を考える会では、1190人と追加の血液検査を重ねて行い、今年4月に会の専門委員会メンバーがインダストリアル

ヘルスに論文を掲載発表。ダイキン工業の元従業員ら7人中5人からPFOAが高濃度で検出され、そのうち2人が間質性肺炎を発症、1人に兆候を確認。PFOAと肺疾患が関係している可能性を指摘しました。

政府はこれら日本での疫学調査や研究論文を重く受け止め、「予防原則」に立って、国民の命と健康を守る必要です。私たちも運動を強めているところです！

第69回大阪母親大会・記念講演
ダニーさんのお話を聞いて思うこと

大阪AALA会員 松永律



松永律さん

5月31日に第69回大阪母親大会が、クレオ中央で開かれました。記念講演は「世界中にひろめよう憲法9条」をテーマにダニー・ネフセタイさんでした。

■ダニーさんと日本との出会い

ダニーさんは、イスラエルで生まれ育ったユダヤ人で、親族がドイツの侵略によってアウシュビッツの収容所で虐殺されたという悲しい経験を持っておられます。高校卒業後、徴兵制により空軍に入隊、3年間の兵役後、日本各地をヒッチ

ハイクで旅行しました。それは、国外から母国イスラエルを見るというはじめての経験でした。

■ダニーさんがみた日本

中東のイスラエル人にとって、イスラエル人以外（パレスチナ人）は敵国人です。しかし、東京・代々木公園では異国人同士が楽しく過ごしている、その光景に何故？との思いが湧き起こりました。その後、日本で生活を続ける中で、日

本国憲法と出会い、東日本大震災後の原発なくせの運動等を通じて、日本人々が、おかしな、納得いかないことには、何故？と事実を掘り下げていること、子どもたちが平和で健やかに暮らせるよう、地域の人達と力合わせて運動し続けていることを知りました。

■平和的解決があることに気づかずにはいた

イスラエルにいる時、軍隊は国が存続する為に必要だ、軍人としての役目を果たすことでしか国を守れない、と信じていました。しかし、戦闘機は人殺しと破壊の道具です。平和的な解決法があることが頭から消されていた、ということに気づきました。

現在、紛争地帯は世界の2%で、98%はそうではありません。人のDNAに差別や敵対関係はありません。みんな仲良くなれるし、誰もが幸せになる権利があります。身近なところから手を取り合って憲法9

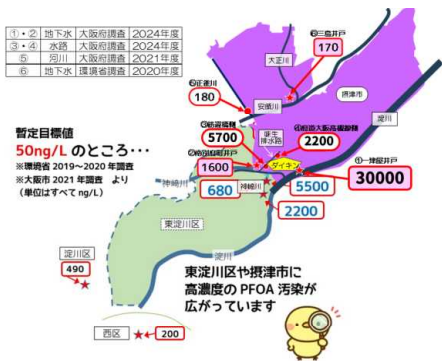
条を世界中に広げましょうと、講演を結ばれました。

■講演後、ダニーさんと

私は運営担当でしたので、スライドが見づらく、言葉が聞き取れ無い部分があり残念でした。今後、書籍やDVDでさらに深く学びたいと思います。

ダニーさんと講演後、話す機会があり、「大阪の人は相づちや拍手があり反応が判り、とても話し安かった、楽しかった、ありがとう」と、言って下さいました。「これまで各地を回った、この夏は九州全県回る予定」とのことです。

ダニーさんの講演を聴きながら、私自身も改めて知りたいこと、知らなければならぬことなどが湧き起こってきました。我が国が、何故「戦争する国」に突き進んでいるのか？何故それが正当化されてしまっているのか？日本の戦前と重なって理解が深まった事に感謝いたします。



八鹿高校事件50周年

「映画と講演のつどい」に参加して

その②

4月29日に熊取町にて映画「八鹿高校事件」の鑑賞と、当時八鹿高校生であった濱道生さん（阪南大学名誉教授）による講演を聴きました。先月号の続きです。

1974年1.1月22日、八鹿高校教職員69人は年休をとり、外部団体による教育現場への不当な介入への抗議行動のため、午前9時過ぎに郊外に出たところを、路上にて多数の同盟員らによって暴行され、校内に拉致され、13時間にわたって「糾弾」という名の筆舌しがたい暴力を受けたのです。以下は、後日24日発行の生徒自治会・新聞部による「八鹿高校新聞」に掲載された近隣住民の目撃証言と、校内にて「糾弾」された教職員によ

る体験証言の中から一部だけを紹介します。

◇町民Dさんの証言

路上に座り込んでいる先生達に、「学校に戻れ！」「一人に四人がかりで引き抜け！」「徹底的に糾弾せよ！」と怒鳴りながら、仰向けにひっくり返っているのを踏みつけるやら蹴るやら、ジャンパーを掴み引きするやら。黒いかたまりが毬のように転がり、顔が見えてはじめて人だと気づく。警察は書店の前に来ていたが、ただ見ているだけで「やめろ」の一言も発しない。警察だけはと信じていたが、腹立たしいやら情けないやら。

◇2年担当の

女性教師の証言

22日のことを思うと、今なお途轍もない恐怖感が戻ってくる。決してあるはずがないことが次々と起こったのだ。会議室で、殴る蹴る、髪の毛を引っ張って机の上に座らされ、私の頭を机にぶつける。時間の経過と共に数十人か、いや百人もいたかも知れない解放同盟に囲まれ、自己批判書

「部落解放同盟」に迫る八鹿高校生



が気に入らないと何枚も書き直しさせられ、いよいよ書き直しをしぶると、今度は「服を脱がせろ！」と言いつくし、その行為に移りかけたのだ。私にとってはこのこと以上の屈辱はなく、自己批判なるものを書き直さざるを得なかった。それが夜の9時半だった。警察は何の役にも立たず、ただ、生徒達が小雨の河原で集会を持ち、抗議の声を上げてくれているとの情報だけが心の支えだった。

◇50周年記念講演・

報告のまぐらめ

八鹿高校OBの濱道生さんによる講演では、事件当時の教職員集団による民主的教育の実践だけでなく、なによりもそれが日常のものとなっていた「生徒自治会」による、また生徒のクラブ活動を含めて、自主

的・民主的活動による人間形成を保障するための延長線上での対応であったことに強く心打たれたのでした。また解放同盟・朝田一派による革新自治体つぶしの最中でもあったことも思い出しました。その意味でも、未だに膨大な利権を守るために、権力はメディアを利用しながら、手を変えかたちを変え、野党という仲間の差別と分断を図る動きが、政治革新を願う今月の参議院選挙に向けても露骨です。

(大杉 晃)



4月AALAカフェのまとめ②

「トランプのアメリカは何をやるうとしているのか」

「分断社会アメリカの現状と変化の可能性」

安井 倫子

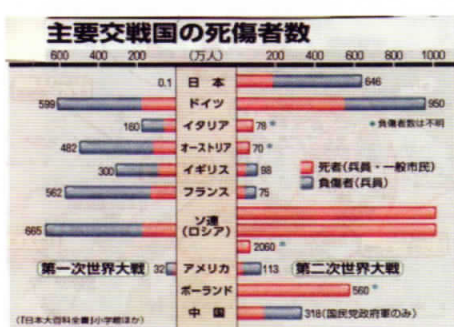
トランプのアメリカは、もはや「自由と民主主義のリーダー」ではなくなった、と前号で言いました。しかし、これには修正が必要です。トランプ以前は「自由と民主主義のリーダー」だったのか？という疑問がすぐに出てくるからです。

20世紀は「アメリカの世紀」と呼ばれ、文字通り資本主義国家のチャンピオンとして世界の政治、経済、さらに社会の民主化をもけん引してきました。そこに陰りが出てきたのは1970年代ごろからでしょう。

第二次世界大戦後のアメリカ経済は絶頂期に達しました。19世紀末に産業技術の発展と植民地（キューバ、フィリピンなど）を獲得したアメリカはヨーロッパ帝国の世界分割競争に参加します。それでも第一次

世界大戦と第二次世界大戦への参戦には慎重で、自国の戦争被害を最小限にしながら、何らかの「国民を合意させる理由」をかがけて、すなわち「民主主義を守る」、「植民地からの独立を支持する」、「国際的協力を推進する」としながら、大量の武器を貸与、ないしは提供して、戦争でほるもうけをしてきたのです。

左のグラフは、世界を巻き込んだ第一次、第二次の世界大戦における人的被害の国際比較です。



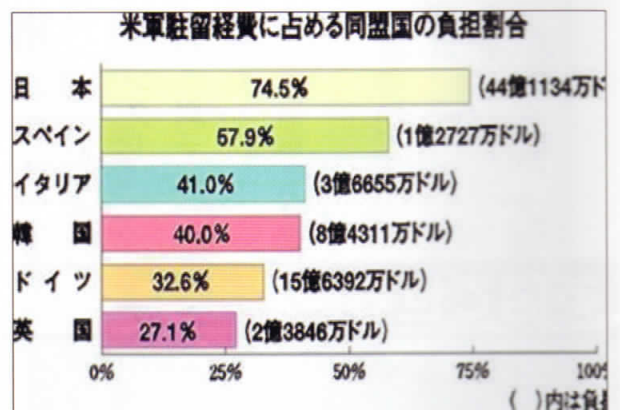
米国における2024年度の国防費

合計：8420億ドル

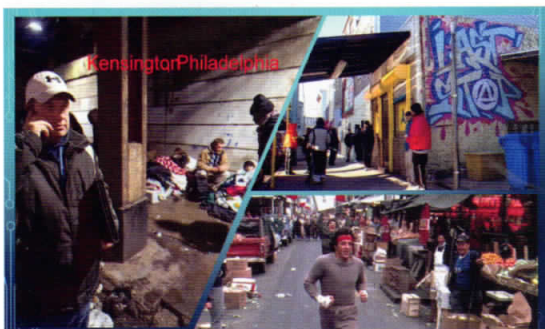


第二次世界大戦後、アメリカは、まさに「軍産複合体国家」として巨大化しました。1961年、時の大統領アイゼンハワーが退任演説で、警告しましたが、冷戦の中で、アメリカの軍産産業は、ますます肥え太り、アメリカという国家の存在を支える産業が軍産産業となつていきます。宇宙開発についても、軍需目的以外の何物でもないというのが、本音です。

アメリカの国防費は日本の国家予算に相当します。しかも、米軍基地を全世界に配備し、世界の紛争にかわり、兵器を売却、「消費」し、軍産産業をもうけさせているのです。さらに基地配備のコストを配備国に押し付けています。日本



は世界で一番気前よくその負担を受け持っています。そんなアメリカのリーダーシップに陰りが出てきたのが、1970年代です。1960年代のアメリカは、国内で「貧困との戦い」を展開し、「偉大な社会」を建設するはずが、ベトナム戦争のコストと「不名誉な」敗退によって、国家的威信を失墜し、石油危機、ドル危機を招き、後塵を拝



することになりました。レガン政権による新自由主義という打開策は、富める者へのさらなる富の集中と貧しいものからのさらなる収奪を生み、「アメリカの分裂」を昂進させました。21世紀になっても、アメリカの「新自由主義」と「軍産複合体」路線は、基本的に踏襲されています。アメリカの分裂は「富と貧困」のカラーラインによる分裂です。写真(左)は私の研究フィールドである、ペンシルヴェニア州フィラデルフィアのケンジントンという町の一角です。(ロッキーが走っています！)ここは、今回の選挙で、トランプ支持に回った州

「ラスト・ベルト（錆びたベルト）」に当たります。トランプは、貧困で生活不安を抱える人々の不満や怒りを「移民」、マイノリティに向けさせ、それを票獲得のエネルギーにしたといえます（ポピュリズム）。当選後も、国内経済に関しては無策で、「関税」に目を向けさせ、友好的な貿易相手国を「敵」に見立てて、無茶ぶり、「有害」な高関税要求を振り回しているのです。

私はある意味でトランプ政権の登場はアメリカの本音をあらわにしていると考えています。

最後に、「分断に抗う」アメリカ市民の姿を提示したいと思います。今、アメリカ国民は21世紀に自国をどんな国にするのかと悩んでいるのです。全米で反トランプ・デモがまきおこっている。シャーマリズムも黙っていません、ハリウッドスターの舌鋒も鋭く、特に今年の春の地方議会の選挙では、民主党の巻き返しが報じられています。もともと先住民以外全員が、「不法移民」のアメリカ合衆国であることを自覚し、「多文化」的国づくりこそが、アメリカの生き残りの道筋だとして、「WOK E（自覚した）」人々が戦っています。

写真（左）は2017年のシカゴの街角です。写っ



ているのはシカゴの公立学校の先生で、教職員組合のリーダーです。「不法移民の町、ピルセン」で、不法移民の子供たちのための学校で仕事をしています。彼はこの壁画が一番好きだと語っていました。



今のアメリカの、アメリカ市民のリアルな姿をまだまだ伝えきれていませんが、またの機会にお話したいです。



文化欄 川柳

物価高 青ねぎレタス プランター
コメ・郵便 株式会社 売る親子
学生と 街角トーク 希望見え

小川 嘉憲

眼の手術 ナースの声に 癒される
夢うつ 国会質疑 子守歌
初舞台 客席ながめ 上の空

近藤 正

英語で世界を読む会

<8月例会> 日時：8月26日（火）
テキスト：未定 LET'S 脳トレ！

午後2時会場：AALA 事務所
ふるってご参加ください！



大阪AALA
へのお誘い

会費 月800円（年9,600円）（25才以下は年3,000円） ※入会金 500円

* 会費の会計年度は毎年4月から翌年の3月です。半期毎に4,800円ずつご入金をお願いします。

* 会費の中には機関紙代も含まれています。月初めに大阪AALAと日本AALAの機関紙を郵送いたします



発行

大阪アジア・アフリカ・ラテンアメリカ連帯委員会（大阪AALA）

Osaka Asia Africa Latin America Solidarity Committee

〒540-0004 大阪市中央区玉造1-6-11 黒石ビル3F

TEL 06-6768-5360 FAX 06-6768-5361

E-mail: osakaaala@nifty.com HP: http://osakaaala.la.coocan.jp/

機関紙・宣伝委員会

